

7月28日、ジェトロ金沢、ベトナム外国投資庁及びベトナム日本人材開発インスティテュート（通称VJCC）に共催いただき、第2回セミナー『コロナ禍でも成長するベトナムの経済・投資環境の現状』を実施しました。前回の78名を上回る129名の企業・団体担当者の皆さまとベトナムがオンラインで繋がり、現在の経済概況や投資環境の説明を受け、ベトナムの木材産業や日本語教育、和牛の海外輸出、米中関係の中でのリスクなど具体的な質疑応答が多くなされ、日本経済とベトナムとの結びつきの強さが再認識されました。第3回は「ベトナム企業経営者とのビジネスネットワーク」を企画しております。

JETRO 北嶋講師による  
▼経済概況の説明模様

セミナー登壇者との  
▼質疑応答セッションの様子

JICA海外協力隊オンラインセミナー（全6回）  
『世界とあなたがつながる場』JICA海外協力隊ひろば 報告!



本セミナーでは、現役のJICA海外協力隊や協力隊経験者が各回のテーマに沿って、派遣国での活動経験や派遣前訓練の経験を参加者に紹介しました。参加者からは「隊員経験者の話から協力隊活動のイメージをつかむことができた」「自分が希望する職種でどんな活動がしたいのか考えるきっかけになった」「派遣前訓練の内容を聞いたので、応募にむけたモチベーションにつながった」などの感想をいただきました。今後もオンラインセミナーの実施を考えています!

- 全6回のテーマはこちら!
- 第1回：幸せのカタチはいろいろ！ 福井発の青年海外協力隊が見た世界 3/20
  - 第2回：子どもの未来のために！ 途上国で活躍した隊員たち 5/22
  - 第3回：地球の反対側にあったもう一つの日本！ 日系社会とのつながり 6/27
  - 第4回：協力隊への第1歩！ 派遣前訓練ってどんなことするの？ 7/31
  - 第5回：スポーツで世界を変える！ スポーツ × 国際協力 8/21
  - 第6回：アフリカがもっと近くなる！ カラフルな世界へようこそ 9/11



参加者募集中！（全4回）  
オンライングローバルキャンパス  
～北陸発の国際協力を知ろう～

JICA北陸では、高校生・大学生向けに、国際協力について知り考えてもらうための入門セミナーを開催しています。8月28日に実施した第1回では、「知ることから始めよう一経験者から学ぶ国際協力」と題し、JICA北陸からJICAの事業や北陸3県の取り組みを紹介、（一社）Think Locally Act Globally (TLAG) 事務局長の小島路生さんからは、青年海外協力隊、JICA専門家、UNICEF職員などの様々な国際協力の経験とその経験から学んだことについて話してもらいました。講義に加え、参加した学生同士でグループに分かれて意見交換も行いました。参加者からは、「教育支援に対する考え方が大きく変わった」「他の参加者と交流できたことが嬉しかった」などの声がありました。下記に記載の今後のセミナーも、各回でお申込みいただけますので、QRコードより詳細やお申込み方法をご確認ください。皆さん、ぜひご参加ください!!



- ▼今後開催予定のセミナーはこちら
- 第3回「行政×国際協力 一私たちの住む街が行っている国際協力とは一」（11/6開催予定）
  - 第4回「地方創生×国際協力 一国際協力の経験からみる北陸の地域課題一」（12/4開催予定）
- ▲今後のセミナーの詳細はこちらから



インドネシアの離島への  
環境教育支援が始動!

JICAは、草の根技術協力事業として富山県の一般社団法人インドネシア教育振興会が提案した「インドネシア国離島でのデジタル教材と日本式授業研究を活用したSDGs環境教育支援プロジェクト」を採択し、この度、本プロジェクトを開始するための現地のNGOを交えた3者による合意書を締結しました。署名式は富山市の藤井市長が立会いの下でおこなわれ、これから4年間の本プロジェクトが始動します。



インドネシア教育振興会 窪木靖信代表理事にインタビュー!

Q1 インドネシアへの支援をおこなうきっかけについて教えてください。



21年前、旅行で訪れたバリ島で、雨の中、裸足で物売りをしていた子ども達を目にしたのがきっかけです。富山に帰り、インドネシアの留学生から当時のインドネシアの現状を聞いて支援をすることにしました。

Q4 これまでのプロジェクトをおこなうときに苦労したことや工夫したことはどのようなことですか？

途上国支援の場合、「もらうやあげる事が当たり前」の事から、一緒に学ぶ事や途上国側も何かしらの負担をする事を前提に進める工夫を実施してきました。



Q2 どうして環境教育の分野を支援しているのですか？

教育ボランティアの活動から始まり、教育現場の改善を進めました。また、街や学校にごみが増えていることから、人々の意識を教育で変える事で「環境」や「学び」が変わると信じ環境教育を推進することにしました。

Q3 窪木さんは国際協力をおこなうために何か特別なことをやってきた人なのですか？ どうやったら国際協力ができるような人になれるか？

最初は、ボランティアを思いだけで進めていましたが、一緒に始めた留学生から「教育の事をもっと勉強しないと負けずよ」と言われ、教員免許を取得するために社会人になってから富山大学で学び直し、その後大学院でも学びました。国際協力を行うために、初めは街づくりなどのボランティアをしてきましたが、途上国の現状を知り海外に向けてできることを考え、やめられないで進めてきました。



Q5 北陸の読者の人たちにひとことお願いします!

このプロジェクトは、SDGsの解決の一環です。北陸に住む皆さんがプロジェクトでの良い見本・目標になっています。それは、普段行っているごみの分別やモラルやマナーの事です。良い行いは途上国で活かした教材にもなります。みんなで一緒にSDGsの解決に向けて取り組みましょう!



インドネシアの人たちに向けた次のメッセージから、窪木さんの熱い思いが伝わってきました。  
『みなさんと学び合いながら、「環境教育!」SDGs解決に向けて進めましょう!』